

## 言心先生の中国便り

## 中国の二世

「竜が竜の子を産む。鳳が鳳の子を産む。鼠の子供が穴を掘る。」と言う中国の諺は、誰もが知っている。今、「官二世」（官僚の子供）と「富二世」（お金持ちの子供）等の新言語がしばしば媒体で出てくる。当然、これらの二世表現には、世の中の不満不平と皮肉の意味がこもっている。

数千年続いてきた中華文化は、素晴らしい事が沢山残っているが、良くない事も少なくない。例えば、自分の子供に対して、過剰な甘えを許す文化である。

中国の友人は、事業が成功して、最近、彼の大卒の息子を会社に受け入れ、将来社長にすることを考えている。これについて、筆者は賛成せず、息子をほかの

会社に就職、苦勞と社会経験させた後、会社に入れる事が、会社にとって、本人にとって一番いいことだと助言した。しかし、彼は、悩んでなかなか決心できない。

今、中国の官僚エリートの中で、相当部分の人の親は、過去と現在の高級官僚である。そのため、「太子党」と言う言葉が出てきた。もし、彼らが自分の能力によって、昇進すれば、誰にも文句はない。ただし、現実では、「官二世」は、昇進のルートが、かなり優遇されている。また、彼らは、色々な「官二世」の権益集団を結成し、これは、利益の再分配、公平公正な社会の形成にとって、最も大きな障害となっている。

中国の不動産の高騰は、バブル状態になっている。一つの原因は、お金持ちの人が、沢山の物件を購入し、息子と孫に分ける事である。そして、これらの「富

二世」は、仕事をせず、手元の不動産を貸して、寄生虫的な生活をしている。

「官二世」、「富二世」の反対的な存在は、「貧二世」と「農二世」である。彼らの親は、貧困層で、現制度で、彼らの子供は、未だ貧困層の割合が高いと思う。根本的な原因は、裕福な階級に傾いた現制度である。中国の大学受験制度では、都市部の出身と農村部の出身の合格点数が、不一致である。北京、上海等の大都市の出身の学生は、かなり有利である。最近、現行受験制度に不満

を持った人は、「北京人大学」という看板を、北京大学の正門に掛けた。北京大学に、北京の戸籍の人が、入り易く、北京人が多いがために、「北京人大学」に変名するのは、無理もない事である。

公平・平等な社会では、どんな貧困な家庭で生まれていても、努力すれば、成功でき、一方で、裕福な家庭出身の人は、親に頼らず、自分の力で道を開く。残念なことには、今の中国は、そういう社会から遠ざかっているのである。



貧困層の子供の  
貧困率は高い…  
現制度が裕福な階級に  
傾いたものだからだ…